



2024

ADVENTURE
AWAITS

Happy New Year

embrace the unknown and approach
life with an open mind and a sense
of curiosity.



GOLDEN CAMBODIA CENTURY

2023年1月30日

GCオルセーマーケットの工事進捗のご報告です。
1月末までで、合計1009本のうち、671本の基礎杭を設置が完了し、66.5%の進捗となりました。順調な進捗を確認し、弊社全体で安全に工事を進めております。





2023年1月09日

GCCグループ主導の香港カンボジアビジネスセンターが、2024年1月9日に香港で正式に開業しました。香港カンボジアビジネスセンターの設立は、カンボジアの経済成長を促進し、国際的なビジネス交流を促進するうえで極めて重要な役割を果たすことが期待されます。







CAMBODIA
MY 2ND HOME

Latest Information

2023年1月29日

2024年1月29日、Cambodia My 2nd Home (CM2H) は、Innovation and Development Investors Association (IDI)との了解覚書 (MOU) の署名を発表しました。IDIは、地元の専門知識とリソースを活用して有望な投資プロジェクトを見つけ、投資家のネットワークを構築し、ダイナミックなパートナーシップを促進する使命を持っています。この協定は、活気ある投資家ネットワークと潜在的なプロジェクトの開発、広範なリーチと新しい機会の発見、業界リーダーとの提携を通じて信頼性向上と投資家の誘致を目指し、地元経済および事業界にポジティブな影響をもたらすことを期待しています。





CAMBODIA

LATEST INFORMATION

2024年01月25日

韓国の元首相、カンボジアの経済成長と新規投資計画に肯定的な見解



2024年1月24日、スン・チャントール副首相は、元韓国首相チョン・セギョン氏との会談しました。CAMKO MOTORおよびCAMKO INFRACOREの代表団も同席しました。チョン氏はカンボジアの経済成長と環境保護に肯定的で、CAMKO MOTORはヒundai車を製造しています。CAMKO INFRACOREは電気自動車の組み立て計画しており、チャントール副首相は再生可能エネルギーの利用拡大目標を共有し、韓国投資家にカンボジアの潜在力を紹介し、投資促進を要請しました。

出典：[Former PM of Korea expresses positive views on Cambodia's economic growth and continuous development, along with many new investment plants](#)

2024年01月24日

コ・ロン国際空港建設が始動



カンボジアのコ・ロン国際エコツーリズム空港が第一段階の建設に着手しました。カンボジアの王室グループが主導し、約3億ドルの投資で推進しています。島における社会的影響の改善と土地整備を経て、5年以内の第一段階完成を目指します。99年リース契約に基づき、コ・ロン島の開発とエコツーリズムの一環として新たなインフラ整備し、空港完成後、年間約138,000人を収容し、10年後には年間266,000人を見込んでいます。

出典：[Koh Rong int'l airport construction begins](#)

2024年01月23日

EU資金獲得へ、カンボジアのグリーンエネルギーが注目



欧州連合（EU）とドイツ連邦経済協力・開発省（BMZ）の報告書によれば、EU企業は再生可能エネルギーに重点を置き、その進展がカンボジアの魅力を高める可能性があるとして述べています。ASEAN地域と比較して、カンボジアの電力生産は環境に優れており、報告書は再生可能エネルギーの利用計画が不足していると指摘しています。電力プロバイダーの認証不足や高いエネルギーコストも懸念されていますが、電力の利用可能性向上や価格低減も報告されています。政府は電力分布と消費の改善を目指しており、カンボジアは電化の増加に力を入れています。エネルギーの景観は利点と課題の双方を有しています。

出典：[Cambodia's green energy, a ticket to EU funds](#)

2024年01月23日

大臣、カンボジア初のスイス時計製造トレーニングセンターを賞賛



出典：[Minister lauds Cambodia's first Swiss watchmaking training institute](#)

ヘン・ソウアー大臣とSDFのCEO、キー・ソッキム氏は、プリンス・グループが支援するプリンス・オロロジー職業訓練センターを訪れ、スイスの時計製造技術を教える唯一の機関であることを確認しました。センターはプリンス・ファンデーションの一環で、ヘン大臣はその高品質な職業訓練を絶賛しました。SDFのプロジェクトは2018年に始まり、スキル開発を促進しています。プリンス・グループのCSRイニシアティブの一環として、時計製造センターはカンボジアの教育向上に注力しています。プリンス・ホールディング・グループは、不動産、金融、消費者サービスを含む100以上の企業を有し、センターはスイスのプロフェッショナルからの経験を学生に提供しています。

2024年01月22日

キリスト教指導者、カンボジアの健康セクター向上で王政府と協力にコミット



出典：[Senior leader of the Church of Jesus Christ commits to working with the Royal Government to improve Cambodia's health sector](#)

2024年1月22日、イエス・キリスト教会の高位リーダー、デール・G・レンランド氏は、カンボジアの健康セクター改善に王政府と協力する意向をカンボジアのフン・マネット首相との会議で表明しました。レンランド氏は宗教、教育、健康分野での貢献や心臓病院建設プロジェクトについて報告し、首相はイエス・キリスト教会の成果を評価し、宗教の自由と調和への王政府の取り組みを強調しました。カンボジアの苦しい歴史に触れつつ、宗教の調和が平和と安定の基盤であると語りました。

2024年01月21日

カンボジアとフランス、戦略的パートナーシップへの関係強化



出典：[Cambodia and France upgrade relations to strategic partnership](#)

2024年1月18日から19日、フランスを訪れたカンボジア首相フン・マネットとフランス政府は、双方を戦略的パートナーシップに引き上げる合意に至りました。この訪問での主な成果は、カンボジアとフランスが対等なパートナーとしての位置づけを強調し、両国関係を戦略的に強化する方針です。カンボジア政府はフランスの役割や経済支援に感謝し、マクロン大統領はカンボジアの平和への貢献や対ウクライナ支持を評価しました。フン・マネット首相は、訪問を通じて関係と協力を一層深める期待を表明し、両国の民間セクター協力を関係の要と位置づけました。

2024年01月19日

大手フランスの物流企業、カンボジアへの投資拡大計画



世界最大の海運・物流企業のCMA CGM GROUPは、2024年1月18日に、カンボジアへの投資拡大計画を明らかにしました。サード会長は、フランス・パリで行われた会談でカンボジアのス・チャントール副首相にこの計画を伝え、自社のグローバルな展開状況も共有しました。チャントール副首相は計画を歓迎し、王政府の投資環境整備へのコミットメントを強調しました。同時に、Ecole 42との会談では、革新的な技術教育機関がカンボジアでの教育プログラムを進めていく姿勢を確認しました。これにより、CMA CGM GROUPの拡大と先進的な教育機関の存在が、カンボジアの経済と人材開発に寄与する契機となりそうです。

出典：[A large French logistics company plans to expand investment in Cambodia](#)

2024年01月19日

カンボジアとインド、共同ビジネス評議会の設立に向け準備



2024年1月17日、カンボジアとインドは、商務大臣チャム・ニムールの指導で、貿易と投資の協力を促進する共同ビジネス評議会（JBC）を始動させることになりました。インド・ビジネス・チェンバー・イン・カンボジア（IBCC）も同時に発足し、企業間の情報交換や協力を進めます。この取り組みは、両国にとって重要な一歩であり、双方の貿易が着実に拡大していることを示しています。

出典：[Cambodia, India gear up to launch Joint Business Council](#)

2024年01月19日

カンボジア首相、ダボスでビジネスリーダーや組織のトップと会談



2024年1月16日、カンボジアのフン・マネット首相がスイスのダボスを訪れ、様々な組織やビジネスリーダーとの会談を行いました。WIPO（世界知的所有権機関）の事務総長ダレン・タン氏との対話では、両国間の協力を称賛し、カンボジアの地理的表示製品の品質を認めました。フン・マネット首相はWIPOへの技術支援に感謝し、知的財産利用に関する能力向上と意識向上の取り組みへの継続的な支援を呼びかけました。

出典：[PM meets business leaders, organisation heads in Davos](#)

2024年01月18日

テコ国際空港の免税サービス、フランス最大のトラベルリテールが運営へ



出典：[TIA's duty-free to be managed by France's largest travel retail](#)

カンボジアのOCICグループは、フランスで開かれたフォーラムで、Lagardère Travel Retail (LTR) を主導する団体とHSCグループをテコ国際空港 (TIA) の免税サービスの管理に選びました。この契約はOCICの国家建設へのコミットメントを示し、TIAの第一段階に15億ドルを投資しています。LTRとHSCグループはTIAの免税契約の優先交渉者として選ばれ、数週間後に交渉が始まる見通しです。CAICディレクターは、この協力がプノンペン市への旅行者に大きな利益をもたらし、地元コミュニティに雇用機会を提供すると期待しています。TIAは2025年に運用を開始し、完全稼働時には国内最大の9番目の空港となり、大型商業航空機に対応する見通しです。

2024年01月18日

中国企業、カンボジアの太陽光発電セクターに投資の意向



出典：[Chinese firm ready to invest in Cambodia's solar sector](#)

中国の深セン電力ソリューションが、カンボジアで太陽光発電機器の製造に投資を検討しています。2024年1月16日、同社の創設者兼CEOである夏莉氏は、フン・マネット首相とのダボスでの会談で、太陽光発電機器を通じてエネルギー消費コストの削減と生活向上に貢献したいとの提案を述べました。首相はこの投資意向に歓迎の意を示し、地元企業との協力を奨励しました。カンボジアの電力開発計画では太陽エネルギーの拡大が計画され、民間セクターの積極的な投資と国内外の協力が求められています。同国の電力料金引き下げ政策も進行中で、電化率はほぼ99%、家庭への電力供給率は90%に達しています。

2024年01月18日

インドネシアのリッポ・グループ、カンボジアのヘルスケアと不動産分野での投資機会を模索



出典：[Indonesian's Lippo Group Seeks Investment Opportunities in Health and Real Estate in Cambodia](#)

インドネシアの主要企業、リッポ・グループがカンボジアのヘルスケアと不動産分野への投資を検討しています。2024年1月17日に、リッポ・グループのCEO、ジョン・リアディ氏がスイス・ダボスでカンボジアのフン・マネット首相と会談し、リアディ氏はリッポ・グループの事業展開や健康、不動産、デジタルテクノロジーなどに焦点を当て、カンボジアへの投資興味を示しました。首相はリアディ氏を歓迎し、カンボジアとインドネシアの類似性に基づく協力の可能性を強調しました。首相は王国政府の政策や外国投資家への奨励についても説明し、リッポ・グループに地元企業との協力を模索し、様々なセクターへの投資を広げるよう勧めました。

2024年01月17日

カンボジアとフランスの貿易総額が5.15億ドルに達する



出典：[Cambodia, France trade volume reaches \\$515M](#)

2023年、カンボジアとフランスの二国間貿易は51.5億ドルで、ヨーロッパ全体の総取引は46億ドルに達しました。フランスは長い歴史を通じて経済的成功に寄与し、両国は資金援助や持続可能な原則に基づいた緊密な協力を進めています。フランス企業は農業、加工工場、エネルギー、医療、教育、ITなどで事業展開の可能性があります、2023年の二国間貿易総額は51.5億ドルに達し、フランスはカンボジアにおける主要な投資と貿易パートナーです。プレミアは安定した環境と投資家への特典を強調し、カンボジアが東南アジアの中心として、メコン川流域市場、ASEAN市場、RCEP市場へのアクセスが可能であることを指摘しています。

2024年01月15日

2023年、カンボジアの石油製品の輸入額、217億ドルに



出典：[Cambodia imports oil products worth \\$2.17 bln in 2023](#)

2023年、カンボジアのディーゼル燃料と石油の輸入は7.6%減の217億ドルとなりました。昨年のディーゼル支出は13.2億ドルで12.2%減、石油は8.5億ドルで0.26%減。カンボジアは海底油田未開発のため完全に輸入に依存しています。鉱業エネルギー省予測では、2030年に石油需要が2020年の280万トンから480万トンに増加する見込みで、先日1月14日のガソリン価格は1リットルあたり4,150リエル（1.01ドル）でした。

2024年01月15日

CDCとXDS Bicycle、難題解決のため協議



出典：[CDC, XDS Bicycle hold talks to iron out vexed issues](#)

カンボジア開発評議会（CDC）は、中国のXDS Bicycle（Cambodia）社と協議し、国際市場への自転車輸出の効率向上に焦点を当てました。CDCのSoun Sopal氏はXDS Bicycle代表団と会談し、投資家への信頼向上を図りました。自転車輸出はロシア・ウクライナ戦争後の経済危機の影響で減少しており、CDCは関連文書の確認を行い、将来の投資プロジェクトを引き寄せるための効果的な取り組みを期待しています。2023年の自転車輸出額は前年比で42.8%減少し、主要市場は米国、ドイツ、日本などです。現在、輸出用に自転車を組み立てる企業は5社あります。

2024年01月13日

岸田首相、フン・セン大統領からの表敬訪問を受ける



出典：[Courtesy call on Prime Minister Kishida by Samdech Hun Sen](#)

1月11日、岸田文雄首相は、日本滞在中のカンボジア国王最高評議会議長サムデク・フン・セン氏に約20分の表敬訪問を受けました。岸田首相はフン・セン氏の来日を歓迎し、両国の二国間関係と地域・国際協力の強化を表明しました。会談には官房副長官守屋宏などが日本側を、公務員大臣フン・マニ氏などがカンボジア側を代表しました。

岸田首相はデジタル分野、連結性の強化、安全保障、カンボジアの民主的発展における協力意向を示し、地域・国際的な懸念事項にも触れました。フン・セン氏は日本への感謝を表明し、両国の関係と協力の継続を望みました。岸田首相とフン・マニ首相のリーダーシップによる進展を評価し、今後も連携を強化していく方針を示しました。この対話は、両国の友好的な関係と協力の進展を確認する意義深いものでした。

2024年01月04日

カンボジア新首相が初来日で講演、日本企業専用の経済特区設立の意向を表明

JETRO

日本貿易振興機構(ジェトロ)

出典：[カンボジア新首相が初来日で講演、日本企業専用の経済特区設立の意向を表明](#)

「カンボジア投資セミナー」は、2023年12月19日に東京都内で開催され、ジェトロ（日本貿易振興機構）、カンボジア開発評議会、みずほ銀行、カンボジア商工会議所が共同で主催しました。このセミナーは、日ASEAN特別首脳会議の際に来日したカンボジアのフン・マネット首相が登壇し、日本企業に対してカンボジアのビジネス環境の魅力アピールする場となりました。

セミナーには他にも、スン・チャントール副首相、キット・メン・カンボジア商工会議所会頭、石黒憲彦ジェトロ理事長などが参加しました。会場およびオンラインを通じて、合計524人がセミナーに参加し、カンボジアへの投資やビジネス展開に関する情報を得る機会となりました。

2023年12月29日

カンボジア、逆風に立ち向かい、2024年に成長を期待



出典：[Cambodia battles headwinds, expects growth in 2024](#)

カンボジアはロシア・ウクライナ戦争やイスラエル・ハマス紛争の影響を受けつつも、2024年には6.6%の経済成長が期待されています。首相フン・マネットの「五角戦略」が牽引し、2030年には上中所得国、2050年には先進国への道を進んでいます。主要な輸出品のGFTが減少しているものの、電子製品や農産物などで赤字を補い、総輸出はわずかに増加。世界銀行は2023年の成長率を5.4%と予測し、2024年には5.8%、2025年には6.1%に向上する見通しです。経済成長の維持には私企業の支援が必要であり、観光や製造業においても課題がありつつも、持続的な成長が期待されています。

2023年12月28日

ダイキン、カンボジア市場に進出 販売会社を設立



ダイキン工業が「ダイキン・エアコンディショニング（カンボジア）株式会社」をプノンペンに設立し、2024年1月からの運用を予定しています。カンボジアはアジアで急成長が期待され、新たな会社では販売強化やアフターサービス向上だけでなく、エアコンエンジニアのトレーニングも重要視されています。商業用エアコン市場が急速に拡大し、HVAC市場は次の5年で年10%成長が見込まれ、住宅需要も人口増加に伴い増加する見通しです。

出典：[Japan's Daikin establishes sales company in Cambodia](#)

2023年12月27日

カンボジアと日本、シハヌークビル経済特区設立について協議



2023年12月25日、カンボジア開発評議会（CDC）は、プレアシハヌーク州に「カンボジア・ジャパン特別経済区」（Cambodia-Japan SEZ）を設立する手続きに関し、日本政府との省庁間協議を実施しました。この会議は、新しいコンテナターミナルの第一段階の起工式直後に行われ、スン・チャントール副首相と日本大使上野篤史氏が出席しました。CDCのプレスリリースによると、会議ではシハヌークビル自主港の拡張と日本投資家を促進するためのカンボジア・ジャパンSEZのプロジェクトに焦点を当て、土地管理、都市計画、建設の関連省庁の上級職員やJICAの代表も参加しました。また、物流マスタープランにも触れられ、先週の新しいコンテナターミナルの起工式も紹介されました。このプロジェクトは2026年に完成予定で、日本の東亜建設工業株式会社が建設を担当し、日本工営株式会社と株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバルが技術監督を行います。

出典：[Cambodia, Japan discuss setting up SEZ in Sihanoukville](#)

2023年12月26日

コー・コング州、環境重視のSEZプロジェクトが進行中



コー・コング州では、グリーン スペシャル 経済区（SEZ）プロジェクトが進行中で、12月21日の会議で関係当局者、カンボジア開発評議会（CDC）、カンボジア経済財政省（MEF）の代表が協議しました。総投資額は4億～8億ドルで、2024年に着手予定です。国と州は計画に向けて300ヘクタール以上の適地を特定中です。CDCは緑のSEZプロジェクトがエコフレンドリーな輸出の拠点となる意向を確認しました。このプロジェクトは低いFDI比率の緑のビジネスに多様性をもたらし、グローバル市場での新たな機会を活かし、外国からの投資を引き寄せ、国内経済を多様化させる狙いがあります。プロジェクトは再生可能エネルギー、廃棄物管理などの環境分野に焦点を当てます。

出典：[Koh Kong 'Green SEZ' underway](#)

株式会社GCCジャパン
〒107-0062 東京都港区南青山2-23-8
外苑ビル8階
TEL:03-5927-1882
E-mail: central@gccjapan.co.jp

